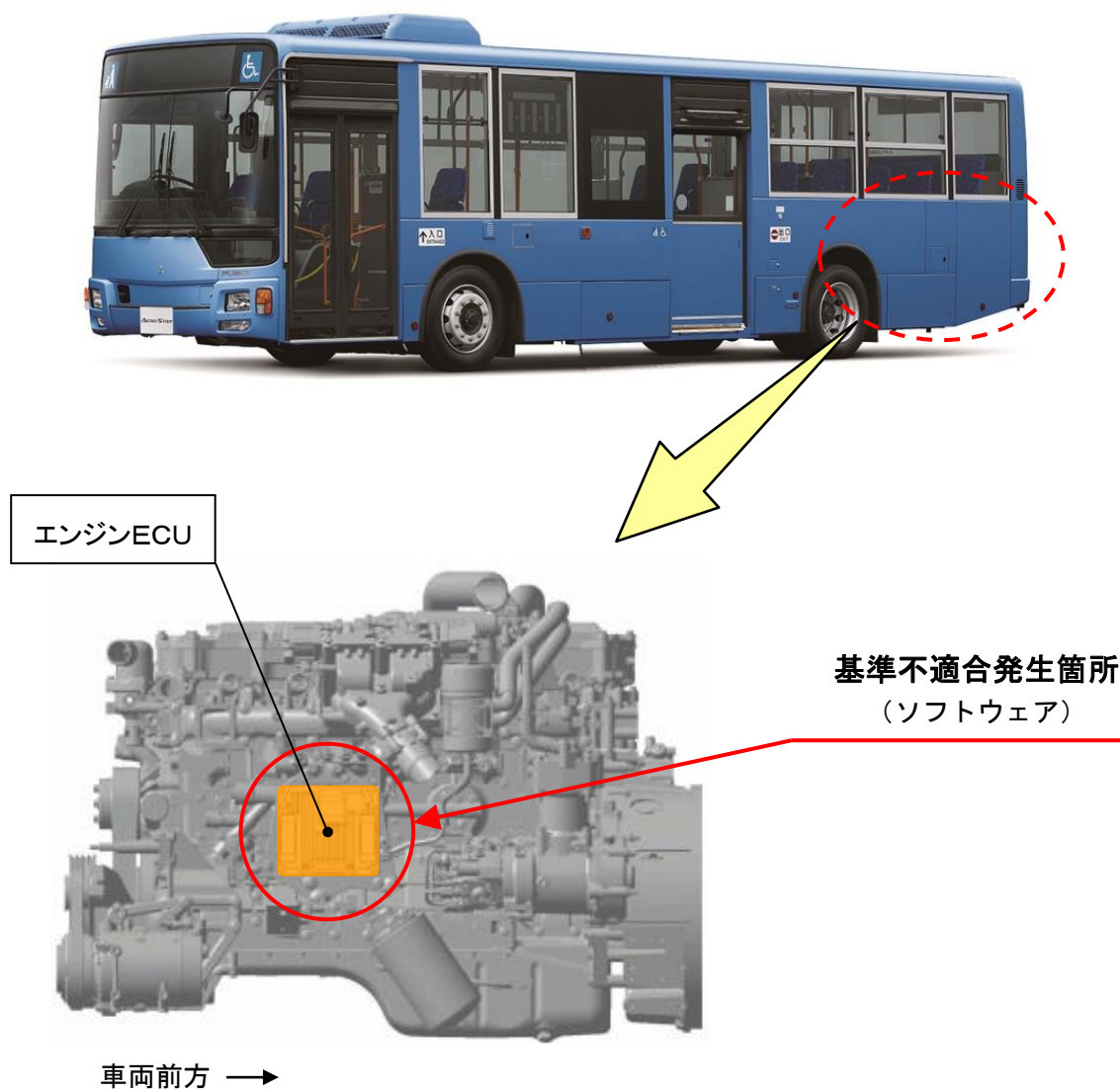


改善箇所説明図



大型路線バスのエンジン ECU において、設計検討が不十分なため、以下の不具合が生じるおそれがある。

- ① スターター作動時にピニオンギヤとリングギヤの噛み合い不良が発生すると、メインスイッチの接点を介さずコイル側にモーターを駆動する電流が流れ続けてしまう。そのため、コイルが熱ダメージを受けて損傷すると、スターターが不動になり、エンジンを始動出来なくなる。
- ② DPF の詰まりや酸化触媒の効率低下を誤検知することがある。そのため、エンジン出力が制限されると共に DPF 再生不可の警告が表示され、次回エンジン始動時にエンジン警告灯が点灯する。

改善措置の内容

全車両、エンジン ECU のソフトウェアを対策品に書き換える。

注：□ は、対策品のソフトウェアに書き換える部品を示す。

識別：作業完了車には、車両左後方点検リッド裏の中央上部に白色ペイントを塗布する。